



峽底烟雲新情：帆影入山以有世
戊戌年 鄧惠伯 畫

揚子江の歌

丁觀加・鄧惠伯二人展

会期：2018年11月20日(火)~30日(金)、土日祝休み

時間：10:30~17:30(最終日は13時まで) 入場無料

開幕式：11月20日(火) 15:00~(要申込み)

交流会：11月20日(火) 16:00~

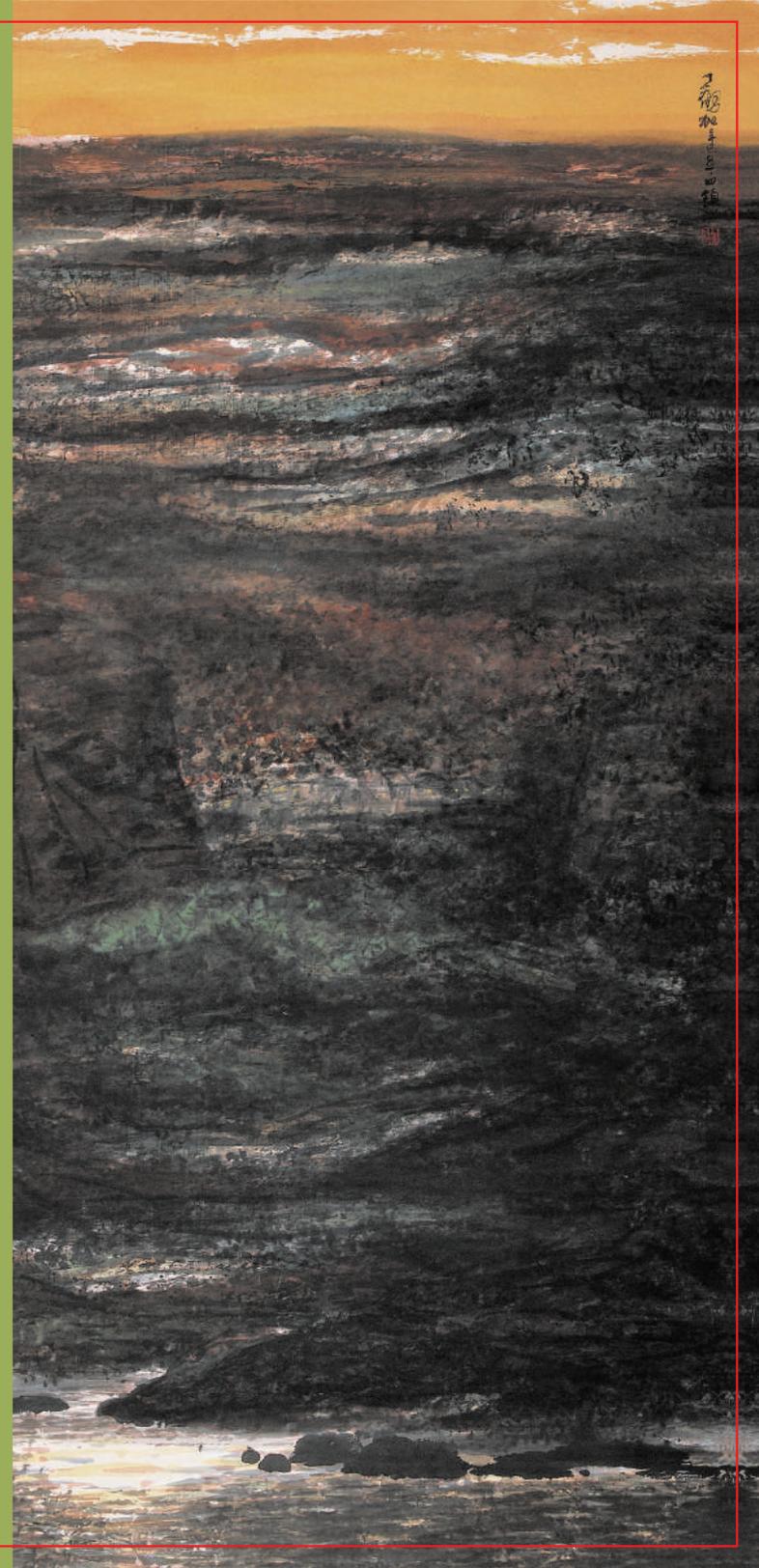
*開幕式のお申し込みは、中国文化センターのウェブサイト
<https://www.ccctok.com> のイベント案内ページよりお願いします。

主催：中国文化センター、WB芸術音楽財団(イギリス)

協賛：英国東西芸術顧問団体

運営：ロンドンUBI芸術空間(イギリス)

後援：中華人民共和国駐日本国大使館文化部、公益社団法人日本中国友好協会、日本華僑華人聯合總會、一般社団法人東京華僑總會、鎮江市文化広報出版局、鎮江市対外友好交流学会、重慶中国三峡博物館、重慶美術館、ロイヤル英国芸術家協会(RBA)



丁觀加・鄧惠伯二人展



Deng Huibo

鄧惠伯 (1938-)

揚子江上流の四川省に生まれる。中国美術家協会会員。『中国美術年鑑 1949-1989』及び『中国現代芸術家大事典』に名前が収録され、中国政府より『現代中国における 25 名の偉大な美術史家』の一人として選出された。

1980 年、中央美術学院大学院卒業後、日本の裏千家学院と京都大学に留学し、博士号を取得。帰国後、中央美術学院や中国芸術研究院美術研究所、清華大学などで教壇に立った。1980 年代前半から世界中で 50 回以上の展覧会を開催し、『冬日』や『雨の嵐山』など作品の多くが、数多の博物館・美術館・政府機関などで収蔵され、収集家からの人気も高い。

『鄧惠伯芸術作品集』、『鄧惠伯絵画作品選』、『鄧惠伯水墨画選』(英語版)、『画家の鄧惠伯』などの作品集が出版されており、芸術史に関する著書には『アジア美術史』、『東洋美術史教程』、『日本美術における研究』、『東洋芸術史における研究』(日本語)、『現代日本美人画選』、『世界美術の沿革』がある。



展示紹介

中国人は古来揚子江を「長江(長い川)」と俗称で呼び、「永遠の川」という意味を込めて親しんできた。長江のように詩や絵などに頻繁に登場する川は他にはないだろう。本会の参加芸術家である鄧惠伯は長江の源流に近い四川省西部に生まれ、丁観加は長江河口の港町上海市の出身である。従って、彼らの人生と密接な関係にある長江を展覧会のテーマとした。

また、丁観加と鄧惠伯は 20 世紀 80 年代から学者兼画家として中日両国をたびたび往復し、芸術交流と文化伝播に尽力してきた。丁観加は日本の岡山市の友好都市である江蘇省鎮江市の「鎮江中国画院」の元院長として文化交流に尽力し、一方、鄧惠伯は派遣留学生として裏千家茶道学院や京都大学で日本の茶道などを学び、様々な方法で日本文化への理解を全面的に深めてきた。同じように日本との交流がある二人は、それぞれ絵画を通じて中日両国の文化が同じ根源を持つことを伝え続け、40 年間近く中日友好に携わってきた。

本展覧が中日交流の促進に深い意義を果たせることを心より願う。



● 日比谷線「神谷町」駅4a番出口より徒歩5分
● 銀座線「虎ノ門」駅2番出口より徒歩7分

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-5-1 37 森ビル 1F
日比谷線「神谷町」駅 4a 番出口より徒歩 5 分
銀座線「虎ノ門」駅 2 番出口より徒歩 7 分
Tel: 03-6402-8168 Fax: 03-6402-8169
E-Mail: info@ccctok.com
HP : <https://www.ccctok.com>



中国文化センター
CHINA CULTURAL CENTER



WB ART MUSIC FOUNDATION (UK)



Ding Guanji

丁観加 (1937-)

崇明島(すうめいとう、現上海市崇明区)生まれ。中国芸術家協会および中国書法家協会会員。中国のトップ画家として中華人民共和国国務院による特別手当を支給されている。1960年南京師範学院(現南京師範大学)芸術学科を卒業、1978年より書画の創作を開始。20年にわたり鎮江中国画院にて副院長と院長を歴任し、2002年北京へ転居した。

イギリス・日本・ロシア・オーストラリア・アメリカ・中国台湾と香港などで 20 を超える大規模な国際展覧会に参加。国内では北京・上海・広州、国外では、日本・ドイツ・カナダ・スイスなど、合わせて 26 回個展を開催した。また、パリで開催された『中国百年絵画展』へも出展している。作品は中国国家博物館、中国芸術家協会、江蘇省・安徽省・広東省・浙江省の各博物館、ドイツ・マンハイム博物館などに収蔵。これまでに 12 冊の画集と 30 本余りの研究を発表している。

